

令和6年度 研究推進計画

学 校 名 東広島市立河内小学校

校 長 大 星 篤 志

学 校 名 東広島市立河内中学校

校 長 三 谷 晶 子

1 研究主題、研究内容・方法等について

①研究主題

自分の考えを進んで表現する児童生徒の育成

～「問いを創る授業」の手法を活用した課題発見・解決学習を通して～

②主題設定の理由

今年度、本小中学校では研究主題を「自分の考えを進んで表現する児童生徒の育成～『問いを創る授業』の手法を活用した課題発見・解決学習を通して～」と設定した。主題設定理由は以下の通りである。

学習指導要領では、これからの時代に求められる資質・能力の一つとして「知っていること・できることをどのように使うか（思考力・判断力・表現力）」を挙げている。将来の予測が困難で変化の激しい社会において、持てる知識・技能を統合的に考え、活用しながら意思決定し、伝える相手や状況に応じて表現していく力が必要である。また、広島県では15歳の生徒に身に付けておいてもらいたい力として「自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる力」が示され、令和5年度広島県公立高等学校の入学選抜から「自己表現」が導入されている。学んだことを使って自分らしく表現することが自己実現につながり、変化の激しい社会をたくましく生きていく児童生徒を育成できると考える。

<本小中学校・地域の実態>

本小中学校は児童数65名・生徒数89名の小規模校である。そのよさを生かして個に応じたきめ細かい指導ができたり、個々の児童生徒の活躍の場を多く設定したりすることができるなど、児童生徒の力を付けるために様々な取り組みに挑戦しやすい環境にある。一方で、人間関係が固定化しており、相手とのコミュニケーションを深めきれず生活を送っている傾向にある。その結果、大勢の人の前や即興で表現することに抵抗を感じたり、自分の考えを相手に分かるように表現することができず、相手との誤解が生じてトラブルに発展したりすることがある。

また、河内中学校区（河内小、入野小、河内中）の小学校3年生から中学校2年生まで総合的な学習の時間の中で「地域創生プロジェクト」と題し、地域を学ぶとともに、盛り上げるためにどのようなことができるか、教材を開発して取り組んでいる。地域の方々は本小中学校の教育活動に協力的で、地域人材を活用した様々な取組を行う中で、児童生徒が表現する場面を多く仕組んでいる。

さらに、本中学校区は令和5年度から分離型小中一貫校となり、その強みを生かして、同中学校区の入野小学校との遠隔授業で小中の連携を計画的に行ったり、中学校教員が小学校外国語の授業を行う乗り入れ授業等の小中連携を行ったりしている。より一層児童・生徒の学びに効果的な連携方法について、校区小中一貫・接続教育推進協議会等においても、研究や研修を計画的・継続的に行っている。

<昨年度の研究の成果と課題>

本小中学校では、昨年度は研究主題を「自分の考えを進んで表現する児童生徒の育成～意欲をかき立てる問いの設定と効果的な話し合い活動を通して～」と設定し、小学校は主に算数科、中学校は全教科で研究を進めた。主な取組は以下の通りである。

- ①各教科で「表現力」を発揮している姿を発達段階ごとに整理し、一覧表にすることによる児童生徒像の見える化
- ②小中教員での相互授業参観
- ③「意欲をかき立てる問い」「効果的な話し合い活動」等に関する小中合同研修
- ④立正大学・鹿嶋真弓教授による「問いを創る授業」の講義・指導、教職員の授業実践

その結果、次のような成果・課題が見られた。

<成果>

- 理由付けをして分かりやすく説明できる児童生徒の増加【本小中学校児童生徒アンケートより】
「授業で自分の考えとその理由を明らかにして、相手に分かりやすく伝わるように発表を工夫しています。」
小学校 70.7%→79.4%、中学校 87.0%→88.3%
- 児童生徒に理由を明らかにして発言するよう指導している指導者の増加【本小中学校指導者アンケートより】
小学校 100%、中学校 71.5%→87.5%
- 学力の向上
小学校：算数科単元末テスト 80 点以上の児童 71.2%→76.8%
中学校：5教科確認テスト平均点（500 点満点） 3年1回目 223.5 点→4回目 243.7 点

<課題>

- 自分の考えを表現することを楽しさを感じる児童生徒の減少
「授業で自分の考えを表現することは楽しいです。」
小学校 80.3%→72.0%、中学校 86.9%→75.0%
- 児童生徒に意欲をかき立てる問いを提示している指導者が少ない。 小学校 70%、中学校 75%

成果と課題を分析すると、指導者が児童に理由をつけて表現している場を意識的に設定していることにより、理由付けをして分かりやすく伝えていることに肯定的に回答する児童生徒が増加した。その結果、学力も伸びているといえる。

一方で、表現することを楽しさを感じる児童が減少している。その一因として、指導者が児童生徒の意欲をかき立てる問いを十分に提示できておらず、発言しようとする意欲を高めることができず、表現することを楽しさを感じてのではないかと考える。進んで表現力できる児童生徒を育てるために、指導者の投げかける問いに工夫が必要である。

以上の課題及び実態を踏まえ、今年度は、児童生徒の表現力をより一層高めるための課題発見・解決学習が必要であると考えた。表現力を本校では、「考えや意見が伝わるように、口頭や文章、絵や歌等を用いて表現し、伝える力」と考え、研究を進める。

表現力を高めるために、学習内容のプレゼンテーションや、一人歌い【小学校】、河内中TED【中学校】等で表現できる場面を仕組み、自信と意欲、伝え方についてのスキルを高める。授業では、「問いを創る授業」の手法を活用した課題発見・解決学習に取り組み、学力を高める。「問いを創る授業」とは、「問い」を思い浮かべるための起爆剤となる「不思議のタネ」を提示し、子ども自身の中からわき上がってきた疑問を「問い」にしてそれを解決していく授業である。単元の第1時等にこの手法を活用し、課題を解決していく過程で、主体的に自分の考えを表現できる場面を仕組んでいくようにする。また、ひらめき体験教室やSST等を通して、授業の内外で心置きなく自分の考えを表現できる共感的な人間関係の醸成を行う。

これらをとおして、「夢と志」をもち、主体的に生きる児童生徒の育成をめざす。

③研究仮説

指導者が、児童生徒が「問いを創る授業」の手法を活用した課題発見・解決学習を仕組むことで、児童生徒は主体的に自分の考えをもち、進んで表現することができるであろう。

④研究内容

- (1) 表現力を高める授業改善の推進
 - ・「問いを創る授業」の実践

- ・単元のゴールを見据えた「ビジョンシート」の作成
 - ・河内小中版「表現力まんだらチャート」の活用
 - ・授業研究における小中学校教員の相互参観、研究協議
- (2) 表現力の土台となる自己肯定感の向上及び共感的な仲間づくりの実践
- (3) 主体的に考え、表現できる場や過程の設定
- ・一人歌い【小学校】、河内中TED【中学校】等の取組の充実
- (4) 「地域創生プロジェクト」の推進（小3～中2）

⑤検証の方法及び指標

- ・表現力に関する児童生徒・教員アンケート 肯定的評価 85%以上
- ・研究授業でのルーブリック評価 B評価 80%以上
- ・各種テスト（小：単元末テスト、中：確認テスト） 昨年度の数値以上
- ・全国学習・学力状況調査 児童生徒質問紙 表現力に関わる項目 昨年度の数値以上

2 検証計画

- ・表現力アンケート（児童生徒・教員）…計4回（4月・7月・10月・12月）
- ・授業研究、協議会の実施（小中全教職員）…4～11月
- ・各種テスト…随時

3 校内研修計画

実施予定月	研究（研修）内容	担当者	備考
年2回 通年・随時	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価①②結果の伝達 ・児童理解研修(特別支援・生徒指導) ・ICT研修 ・小中研究主任連携 	校長・教頭・教務主任 特別支援教育Co.・生徒指導主事 情報教育担当 研究主任	
年4回 年2回	<ul style="list-style-type: none"> ・表現力アンケート(実施→集計・分析) ・各種テストの結果分析 	教頭・教務主任・研究主任 各担任	
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程について ・授業での学習規律等共通理解 ・授業づくり・学級づくりの理論研修 ・研究主題・内容・計画について ・学習指導案の作成について 	教務主任 教務主任・研究主任・生徒指導主事 講師(立正大学・鹿嶋真弓教授) 研究主任 研究主任	
5月	・授業研究	授業者	授業研究の内容
6月	・授業研究	授業者	・指導案検討
7月	・授業研究	授業者	・模擬授業
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・授業づくり研修 ・公開研究会指導案検討 	研究主任 講師(立正大学・鹿嶋真弓教授)、市教委指導主事、全教職員	・授業 ・協議
10月	・公開研究会	授業者	・まとめ文書作成
12月	・研究のまとめ作成	研究主任	
1月	・研究の成果と課題の分析、まとめ	研究主任	紀要作成
2月	・来年度に向けての計画立案	教務主任・研究主任	

4 研究公開の予定について

10月31日（木）に実施予定

令和6年度 東広島市立河内小・中学校 研究構想図

【児童生徒の実態】

- ・個々の活躍の場を多く設定したりして、様々な取組に挑戦しやすい環境にある。
- ・いつもとは違う場所で表現することに抵抗を感じたり、自分の考えを相手に分かるように表現することができず、相手との誤解が生じてトラブルに発展したりすることがある。

学校教育目標 「夢と志」をもち、主体的に生きる児童生徒の育成

研究主題

自分の考えを進んで表現する児童生徒の育成
～「問いを創る授業」の手法を活用した課題発見・解決学習を通して～

【研究仮説】

指導者が、児童生徒が「問いを創る授業」の手法を活用した課題発見・解決学習を仕組むことで、児童生徒は主体的に自分の考えをもち、進んで表現することができるであろう。

【研究内容】

- (1) 表現力を高める授業改善の推進
- (2) 表現力の土台となる自己肯定感の向上及び共感的な仲間づくりの実践
- (3) 主体的に考え、表現できる場や過程の設定
- (4) 「地域創生プロジェクト」の推進(小3～中2)

【めざす児童生徒の姿】

- ・主体的に自分の考えをもち、進んで表現できる。
- ・自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる。
- ・自他を尊重し、自ら考えて、よりよく行動できる。